

# 設立趣旨書

日本は世界有数の雪国です。豪雪地帯も多く2500万人を超える人々が積雪地域に暮らしています。また、登山やスキー、スノーボードといった雪山でのスポーツを楽しむ人々も2000万人を超えており、近年はスノーシューなど、自然に触れるタイプのレクリエーション人口も増えています。

日本には雪と雪崩について、科学的かつ専門的にかかわっている方がたくさんいます。しかしながら、そこで得られた貴重な成果や情報が雪山でのスポーツを楽しむ人々に的確に伝えられ、役立ってきたとは言い難い面もあります。実際、日本では、この100年間で5500件を超える事故があり、1000名を超える方々が亡くなられています。しかし、公的な雪崩協会はありません。

こうした状況は、欧米において、各方面の専門家が連帯し合うことによって雪山でのスポーツを底支えする公的な雪崩協会が存在している姿とは対照的です。また、最近富みに増えているスキー場の外へ向かう人々の多くは、雪山が潜在的に持っているリスクである雪崩に対して、十分な知識を持っているとは言い難い面もあります。

そこで私たちは、雪山に向かう人々及び積雪地域に住む人々に対して、雪と雪崩に関する正しい知識を啓蒙し、情報共有することを目的とした組織を立ち上げることにしました。そしてこの団体の社会的公益性と組織運営の透明性を鑑み、また海外の各雪崩協会との国際協力においても法人化の必要に迫られ特定非営利活動法人として申請するものです。

日本雪崩ネットワークは、雪と雪崩に対する認識を高めるため、研究者、山岳救助隊、スキーパトロール、プロフェッショナル・ガイド、山岳団体など、雪と雪崩に専門的に関わっている人々と連帯し、雪山でのスポーツを楽しむ人々及び積雪地域で生活する人々に向けた啓蒙活動を行っていきたいと考えています。

平成13年2月12日

特定非営利活動法人日本雪崩ネットワーク

出川 あずさ